The interview to an entrepreneur
起業しました！
起業家大学修了生を訪ねて

有限会社イメージクラフト杜の風
人そして暮らし。ありのままの今を伝える映像制作

テレビ番組を中心に、ビデオやCG作品、ホームページの制作など「映像」に関するあらゆる仕事を展開する「イメージクラフト杜の風」。代表の古戸英彦さんは制作会社で映像クリエイターとしてキャリアを積んできた人である。フリーランスとして独立する人も多い業界で会社設立という道を選択した古戸さんに、起業のきっかけからモノづくりへの思いまでをうかがった。

フリーではなく起業家の道を

スチールラックにズラリ並んだビデオカメラ、その横に積まれたビデオテープ。反対側にあるデスクの壁はいくつものパソコンと編集機器が天井近くにまで設置されている。そのモニターに映っている画像は、編集作業中のテレビ番組だろうか。ここは盛岡市館向町の住宅街の一角にある「イメージクラフト杜の風」。同社はコンピュータと映像デジタル機器を駆使し、様々なメディア作品の制作を手掛けている映像プロダクションである。

会社の設立は平成11年。市内の映像制作会社に勤めていた古戸英彦さんが独立して立ち上げた。代表の古戸さん、会長の映像カメラマンとして活躍していた叔父の菅原淳一さんと、それに4人のスタッフを加えた構成でテレビ番組制作を主体とした業務を展開している。

「そもそも映像制作という仕事は自分の体が資本。フリーとしてやる道もあったし、実際できるという自信もあったんです」。独立のきっかけはという問いに、古戸さんはそう答える。確かに、映像クリエイターとしてキャリアを重ねていた古戸さんにとっては、フリーランスという選択の方がむしろ容易なことだったようにも思う。

「でも私は最初の企画から関わるようなトータルな仕事がしたかった。それは一人じゃできないから、会社という組織を作ろうと思ったんです」。

❶「普通に、ありのままに生きている事。その意味を映像を通して伝えたい」と話す古戸社長。ファックスをきっかけに一般視聴者の家を訪問してお年寄りに話を聞くなど、アクティブな取材を行う事も。「人の魅力って、見ただけじゃ分からないものです」

自身の映像へのこだわりを追求するために決意した起業。その方法を模索している最中、たまたま取材を通して知ったいわて起業家大学に通うことにしたのが、古戸さんにとっての転機になった。

起業家大学との出会い

「とにかく元気でパワーのある方というイメージでした」。古戸さんが起業家大学で出会った福島先生に抱いた第一印象だ。しかし最初こそ驚いたものの、先生の放つそのパワーは、いつしか講座に通う受講生の中にひとつの空気を生み出すことにもなっていったと古戸さんは話す。

「自分はもちろん周りの人も前向きにしていこうという思いをいつも講義を通して先生から感じていました。最初は『自分に起業することなんて果たしてできるのか』という半信半疑の人もいたと思いますし、正直私自身も揺れ動いていました。でも講義を聞いているうちに、全員が『やればできる』という意識に変化していったんです」。

夢の方向こそ違うものの、その根底にある情熱や思いは皆同じ。福島先生の講義は、それに気付き、かつ共感を呼び起こすきっかけを与えてくれるものでもあったようだ。

「講義が終わった後は毎回のように先生そして講座の仲間と飲み会になりましたね。みんなで酒を酌み交わしながら確認しあったのは『一緒に頑張っていこう』という強い思い。起業家大学、そしてあの仲間がいなかったら…ひょっとすると、起業するまでいっていなかったかもしれない」。

先日、古戸さんはいわてアントレプレナー交流会に参加した。旧交を深めた仲間の中には大きな事業展開に成功している者も多く「刺激になった」という。

誰しも起業には不安やプレッシャーがつきまとうもの。それを乗り越えられるのは資本でも実績でもない、ともに進む仲間がいること。それに尽きるのかもしれない。

映像で「ありのまま」を伝えたい

「イメージクラフト杜の風」がこだわる映像制作、それは「ありのままを伝えていくこと」。ドキュメンタリーしかり、バラエティーでもCMでも変わらないスタンスと古戸さんは言う。

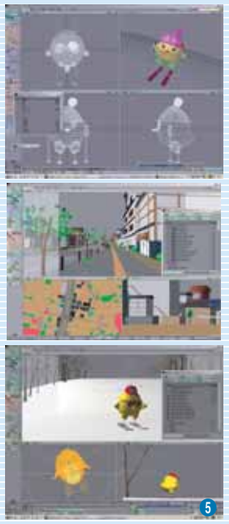
「技術のお陰で『格好いい映像』というのは割と誰でも作れてしまう時代。でも見終わった後、果たして何が言いたかったのか、視聴者に伝わるものはあったのかと疑問が残るものが多い。私たち制作の人間に求められるのは、取材対象者やスポンサーの『思い』を伝えることだと思うんです」。デジタル全盛の現在だからこそ、逆に「リアル」にこだわるのが古戸さんの目指すモノづくり。そこにはいつも「人」が存在している。

「たとえば以前作った『惣門かいわい～明治の人情の残る町』は、古い町並みを背景に暮らす人々のインタビューで構成したドキュメンタリー。そこに大きなトピックはないんです。けれど普通に暮らす人々にもそれぞれのドラマがあるという事、そしてそれを見た人が自分自身の生きている意味をも考えたりするきっかけになるような番組は、これからも作っていきたい」。映像というメディアだからこそ伝えられる人々の息吹き。そんな同社の番組づくりに対する評価は高い。

「起業はチャレンジ。誰でも不安はありますが、何より一歩踏み出さないと話は動かない。もちろん準備は必要ですが、それが完璧じゃないからと躊躇する必要もない。頑張っていれば不思議と助けてくれる人が現れますから」。

動き出した事で周囲から巻き起こった風。その上昇気流に乗って「イメージクラフト杜の風」は、大空のさらに高みを目指している。

❷撮影の風景。ありのままにこだわることで、自然と映像のクオリティに対する要求も高くなっていく。同社ではデジタルハイビジョンカメラなど先端の映像機器を導入して、今を生きる人々の暮らしをリアルに追いかけている。



❸同社が手掛けてきた代表作のひとつが、IBC岩手放送で放映された「環境スペシャル」や「岩手大陸」など30分のドキュメンタリー番組。岩手の自然やそこに暮らす人々の暮らしを真摯に見つめた作品が多い。
❹同社のメンバー勢ぞろい。会長をつとめる叔父の菅原淳一さんは古戸さんの師匠的な存在。4人のスタッフは20代～30代の若手だが、それぞれが映像のプロとして活躍。「最近は仕事を任せられるようになってきました」と古戸さんも微笑む。
❺CGなどの企画制作はドキュメンタリーと違いゼロから作り上げていく作業ゆえ「小説を書くような面白さがある」とか。

会社名　有限会社 イメージクラフト杜の風
住　所　盛岡市館向町6-18
TEL　019-629-1622
FAX　019-629-1623
代　表　古戸　英彦
業　種　映像制作業
URL　http://www.imkraft.com/

お問合わせ先　新事業支援課　TEL 019-621-5070　FAX 019-621-5481
URL http://www.joho-iwate.or.jp/info/sogyo　E-mail joho@joho-iwate.or.jp